

<全体分析>

試験時間

60分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

設問数はほぼ変化がなかったが、題意をとらえにくい問題が出題された。

出題の特徴や昨年との変更点

全問題が解答の導出過程を示す問題で構成されている。

グラフを描かせる問題が出題された。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	問形式 (記述・描図)	力学 (円運動)	物理	すべらずに転がる円筒の内面に固定された2物体の運動。すべらずに転がることから最下点に小物体がきたとき、速度が0であることに注意しなければならない。	やや難
II	問形式 (記述)	電磁気 (荷電粒子の運動)	物理	質量分析器の原理について考える問題。問4では、半径が等しいとして計算すること。	標準
III	問形式 (記述・描図)	波 (波の干渉)	物理	問1では、固定端反射における反射波と合成波を描かせる問題。問2以降では、薄膜で反射する光の干渉の問題である。測定結果を示す図から適切にデータを読み取り、解答に用いる必要がある。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書を中心に基本事項を正しく理解しておくこと。また簡潔で正確な文章により、物理現象や法則を説明できるように日頃から練習しておくこと。